

ヤマモモ

ヤマモモの実や花について

赤い花が3月～4月に咲き始めます。実は夏にでき甘くて酸っぱい実がなります。しゅうかくできるのは、6月～7月です。



ヤマモモの知らなかったおどろき 🐼

ヤマモモは、幻の果実でお店では売っていないきちょうな実です。ヤマモモは山に生えるモモと言われています。

ヤマモモには別名があった 🤔

シロコヤマモモ、高春ヤマモモと言う別名がありもう1つは、ヤチヤナギというのがあります。稀にシロヤマモモと言うのがあります。ようばいと言うのがあります。

花言葉 🌻

教訓 ただ一途ただ一人を愛する。

こんな情報もあったよ。

世界には35種類のヤマモモがありました。あと、ほるとのきという木に似ています。



城南小 4年1組 ふじしま 大和 作

ヤマモモ

ヤマモモの高さ

大きくなると20~25mほど高く生長し、直けいが1mにおよぶものもある。



夏の葉の色

初夏をむかえるとあおあおとした葉っぱになるそうです。

名前の意味

名前にモモがつくが、ヤマモモとモモは全くべつの植物です。

森林インストラクターさんに聞いたこと

世界のヤマモモの35種類ある。めずらしい木だそうです。ヤマモモのもう一つの名前はヤチヤナギだそうです。まれに果実の白いシロヤマモモもあります。



他の県の子ヤマモモの名前

日本では関東南部~沖縄にかけてあたたかい地いきにあり、古くから和歌の題材などに読まれています。

城南小4年1組 甲斐 智貴 作

ヤマモモ

ヤマモモとは？



・中国及び日本を原産地とするヤマモモ科の常緑樹。主に関東以南の低地に自然と生えてくる。葉が、すきまなく生えるとし丈夫であることからマテバシイなどとともに公共の場所で数多く使われている。

・初夏にできる直径1～2センチの赤い実は、表面に小さな凹凸がある。甘味、酸味に加え、松脂のような雑味があるものの、生で食べることもできる。収穫後すぐに黒ずむなど日持ちしないため、ジャムや果実酒に使われることが多い。収穫メインの場合、直径のより大きい「瑞光」や「森口」といった品種が好まれる。



・ヤマモモはメスの木とオスの木が別べつに育つ。街路樹として使う場合は歩道が実で汚れないよう、雄の木を使うことが増えている。

・ヤマモモの樹皮は染料（黄色）として使われる。

ヤマモモの育て方のポイント

- ・痩せ地でも育てられる（粘土質の土壌を好む）
- ・葉が密生するため、完全な目隠しを作りやすい。
- ・潮風、強風、乾燥に強い。
- ・日陰でも育てることができる。ただし、実成りは悪い。
- ・ヤマモモの株下は暗くなるため花を植えるような楽しみ方はしにくい。また、大量の実が落下して地面を汚すため、街路樹としては雄の木を使うことが増えている。
- ・収穫については豊作と凶作を交代で繰り返すことが多い。実がならない年は一粒もできないこともある。
- ・収穫のためには、メスオス両方の木が必要というが、風によっておしべの花粉がめしべに運ばれる花であり半径15キロ程度以内にオスの木があれば足りる。（実際、管理人はメスの木しか植えていないが収穫できる）
- ・コブ病やハマキムシ（写真参照）の被害が多い。また、熟した実にはカナブンが寄ってきて食害することがある



城南小4年2組 中村舞姫 作